

## ◆ わたしの視点 9 ◆

### 会派は市民の為の政策研究グループ

会派について誤解もあり受け取り方がさまざまのようですが、基本は政策研究グループと考えるべきです。市議会においては国・県の政党内会派のような強い拘束力を持たせず、第一に市長、議員が提案する議案や市政の抱える問題を市民のために調査・研究する事。第二により良い議会運営、議会構成ができるように努める事。この二点を一緒に取り組み、同じ方向性をだせる可能性の高い議員同士が、同志として会派を組むことが大切と思っています。時には会派の中で議論を深めても意見の分かれることもあるでしょう。しかしその時は互いの意見の違いを理解した上で議場で対峙する事があっても良いと思う。私は議会に提案された議案や請願で何度か同志と袂を分かつ事があったが常に会派で議論の上、本会議では自分の考えに理解を得る努力のために必ず賛成か反対かの質疑・討論を行ってきた。そこが市民にもっとも近い行政を預かる市議会の会派ではなかろうか。ただ最初から政治思想・哲学・理念の違う議員の集まる会派では議会運営や議会人事で主導権を取る為のグループにしかたない。今の村上市議会がどのような経緯で9会派に組織構成されたか私は定かではありませんが、単に地区の結束会派や5地区のバランス会派では意味がありません。結果、議案の賛否を取りまとめる事や議会人事の争奪を有利に進める群れでしかなくなる。それも議案の賛否を議会の度に押し付けられるようになれば議員の個性は無くなり嫌気がさすだろうし、議案の賛否がいつもバラバラでも一緒に居る意味が無い、政策研究に努力しない会派はいずれ分解する事になるでしょう。また私は自民党会派に属していたが我々は自由な政治活動を許されしかも市民の声、市政の要望を県・国へ持ち込む窓口になる事ができ、活動の幅も広がっていました。他の政党内会派のような国・県からの活動指示は無く、逆に国政、県政に対する市民の不満や要望を政策に反映させるために政党を通じて意見する事が出来ました。しかし、そのことを市民に伝えて理解を頂く努力が私には不足していたと反省しているところです。